

コロナから前に進む

コロナの収束が未だに見えないですが、今年の令和3年とはだいぶ状況が変わったように思います。昨年のお正月はこんな状況でした。

- ・コロナが日本で流行り始めて丁度一年
- ・日本の新規感染者は全国で一日3000人を超えて緊急事態宣言がでる
- ・2月からワクチンを打ち始めたが供給が追い付かない

など皆様も随分不安や苛立ちがあったのではないかと思います。

あれから一年、新しい株が出てくるなど**まだ色々とありますが、昨年ほどの焦りや不安はない**かと思います。それは我々がコロナと向き合い続けて、ワクチンを始めとした**対策を続けてきた成果**だと思います。

例えば政府は色々失策もありましたが、ワクチンを必要数しっかりと確保しましたし、今回オミクロン株が出たと言われた時に早めに水際対策を講じました。また、我々もある程度の感染者がでれば、まん延防止などの規制が掛かり、より一層気を付けなくてはいけないのだという心構えができています。これはコロナが「正体不明のウィルス」ではなく、色々対処に追われながら苦勞し、こうすれば良いのではということが明らかになってきたからこそ、昨年に比べれば不安や苛立ちも減ったのだと思います。

仏教では**悩み苦しみを超えて悟りという安心の**が必要だと言われています。

何種類かあるのですが、私はその中でも「**泥中蓮華**」（苦勞という泥を糧として蓮は泥にまみれることなく大輪の華を咲かせる）

という功德が一番好きで、うちのお寺の御朱印にもしております。このコロナにおいて少しずつ色々な苦勞や経験を積み重ねて不安や苛立ちなどの気持ちを無くしていく、それは仏教に説かれた善い行いであり、実はコロナ以外でも**至る所に**



皆様は野球で活躍された**野村克也監督**をご存知かと思います。惜しくも令和2年にお亡くなりになりました。丁度コロナが流行っていたこともあり、延期されていた偲ぶ会が令和3年の12月に行われ多くの関係者やファンが参列されたとのニュースもありました。その野村監督、現役時代に捕手をしながら三冠王獲得や監督としても名将与称えられる方ですが、実は**プロ入り前後はそこまで戦績は良くなかった**ようです。高校時代は甲子園にはでれず予選敗退、その後に入団テストを受けて南海にプロ入ります。ただ、出場機会が貰えず、さらにカーブが打てないなどの理由から成績も振るわず戦力外通告を受けたこともあったそうです。その後、肩の強化や相手ピッチャーのカーブを投げるときに出る「くせ」を研究することにより、**徐々に成績を上げる中で「考えることの重要性」を認識**したそうです。そして同僚のドン・ブレイザー氏の教え「シンキング・ベースボール」などもあり、後の監督時代に経験や勘ではなく、データ分析による野球、**ID野球を提唱**します。そしてそれは日本の野球界に革命を起こし、偲ぶ会に来ていた関係者の方々を始め**現在も広く使われています**。これも苦勞を糧とした一つの泥中蓮華の形だと思います。

ここまで大きいことでなくても、**皆様の日常**でこういう**失敗**をしたから次はこれに気を付けよう、こういう**工夫**をすれば次はもっと良くなるなどということはなかったでしょうか。余り実感はないかもしれませんが、よくよく探してみればきっと**皆様も泥中蓮華の功德を積んでいる**と思いますし、それは常に**変わりゆくこの世にて、より良い方向に向かう為にとっても大切なこと**です。

だからこそ、**今回のコロナ禍**においても我々としてはただ、**流されるまま、止まったままではいけない**と思っています。それでは**泥の中に埋まってしまう**のです。お寺としても**様々な工夫**をしてきたつもりです。**行事関連**もそうですが、他にも昨年末にお配りした**檀信徒さんが運営する事務所のチラシ**はなかなか縁を結びづらくなったお寺と檀信徒さんを少しでも**繋ぎ直そうとする一環**です。また、昨年まで毎月有料で行っていた「月例会」をもっと皆さんに気軽にきて貰えるようにと、**今年は毎月の「祈願会」**として**無料で行っていきます**。これもお寺に足を運ぶ**機会の増加**、また、心配事や願い事がある時に**申し込みなしで気軽に参加できるような会**を作りたいという想いから変更致しました。

皆様もこのコロナで辞めたこと、続けたことなどを通じて改めて気づいたことが色々あるかと思います。どうぞ、泥中蓮華の功德を積むためにも**その気づきを大切に**